

一仏両祖の教えを今に伝える

令和7年1月1日発行(毎年1.3.6.9月の1日発行) 第171号

曹洞禅グラフィック

SŌTŌZEN GRAPHICS

2025正月冬号

No.171



特集インタビュー
ジャーナリスト
鈴木エイトさん
見えてきた
カルトの
闇と対峙する
「聞き手」宗教二世エハマ

渠水 成到

總持周行

大本山總持寺貫首
石附周行



水到れば渠成る
水到渠成

令和七年

迎春

曹洞宗管長
大本山永平寺貫首
南澤道人



光明

光明

永平道人

新年明けましておめでとうございます。拙衲が方丈とする紫雲台の庭池にはチヨロチヨロと水が流れ入って石を穿っている姿が見られるのです。禅門で使われる言葉に「水到渠成」(水到れば渠成る)がありますが、雨水によって次第に削られる渠もあれば、雨垂れが軒の石をまるく窪ませているのも見られます。水は、その性質ゆえに「ほとけのころろ」を象徴するとも言われます。道歌に、「雨あられ 雪が氷とへだつれど」とくれば同じ「谷川の水」と歌われているのはその意でしょう。水は融通無碍なのです。ある時は霜となり、ある時は雨となり、ある時は霧あるいは霞となる。それがとどこおれば、湖となり、流れては川となり、そして大海となつてゆく。こうして水は変幻自在の変容を遂げてゆきます。時に応じ所に応じて、いいかえれば縁によつてさまざまに姿に水は変わつてゆくのですが、しかしだからと言って水の本性というものは決して変わることがない。この本性に学ぶことが重要なことではないかと思うのです。

新年のご挨拶に先立ち、昨年、有ろう事か元日に起きた能登半島大地震に見舞われ、今も困難の中に在る皆さまにお見舞いを申し上げ、一日も早く皆さまが安寧の光に包まれますことを切に願っております。そして、穏やかに新春をお迎える皆さまには、ご清福を言祝ぎお慶びを申し上げます。老衲、新年を迎え数えて白寿となりました。顧みますと(悲喜交々)の一語では言い尽くせぬ様なことが有りました。思い出せば、今でも胸が潰れそうになる事、つい微笑みがこぼれる事、中国に「塞翁が馬」の譬えもありますが、当に人生「吉凶は糾える繩の如し」であります。禍福吉凶悲喜交々であります。計らいを離れ、背筋を正し、息を調べて坐っておりますと、禍福吉凶に見舞われている此の身が、そのまま仏であると信じられるのです。永平寺御開山道元禪師さまは「十方界は是れ自己の光明」とお説きです。正身端坐し計らいを離れ、仏である自己に目覚め、自己をして混迷の世を照らす身と為そうではありませんか。



国内外に衝撃を与えた
安倍元首相銃撃事件より約2年半
2023年10月に
解散命令請求が発令された
旧統一教会の問題と、
長年に渡って向き合ってきた
鈴木エイトさんに、
永正寺にてお話を伺うことができました

特集

鈴木エイトさんインタビュー
見えてきた

今回聞き手を務めるのは、
本誌記事「宗教虐待」(164・165号)
にも登場し、各メディアで
「山上被告と似た境遇の二世」として
取り上げられることもある、
宗教二世エマ(本人は信仰なし)

カルトの闇と
対峙する 前編

約30年以上に渡って
家族・親族に現役信者を持ち、
虐待や金銭的被害等
カルトが及ぼす闇と孤高に
戦ってきた経験を携えつつ、
凛とした境内で紡がれた
エイトさんのお言葉に、
耳と心をじっくり傾けます



エイト 七月に奈良へ行く予定をしているのですが、それがたまたま山上被告の四回目の公判前手続きの日（二〇二四年七月三日）で、奈良地裁の状況を見てよいかなと思っ
ています。

エマ 何かしらの情報を出せるような状況には
なり得そうですね？

エイト そうですね。もし、万が一山上被告と接
見できたとしても、そこで語る内容はそ
のまま表に出そうとは思っていません。

最初の裁判での彼の発言や、罪状認否
の段階で何を言うかというところもその
ときの弁護方針に則って話すことなので、
彼が事件を起こしたときの気持ちそのも
のではない可能性もあるし、その辺を考
えた上で彼が今後どのような発言をする
かというところを見ていきたいなと思っ
ています。

エマ 最新の情報だと、最初の裁判は来年にな
りそうだという話ですよ？

をポロツと言われて、ものすごくショッ
クを受けて。

事件前に僕に送ってきたメッセージの
中に事件を知らせる内容があったとした
ら、自分は事件を止められる存在だった
のではないかと。

エマ 彼からのメッセージを見逃していたかも
しれないと悔やまれたんですね。

エイト その通りです。そのせいでああいう事件
が起き、安倍元首相が殺され、旧統一教
会の被害者を犯罪者にしてしまったとい

エイト はい、とはいえ論点整理というのが全然

されておらず、一定の方向性が出てきた
とは言っていましたけれど、かなり時間
がかかりますね。

裁判官、検察官、弁護団の法曹三者で
協議を月に一回程度のペースで定期的
にやっていて、三カ月に一回、公判前手続
きを山上被告も参加してやっているこ
ろです。

エマ 動機面についてはいかがですか？

エイト そうですね、断片的な内容は出ています
が、そのシナリオ的に言うと、彼が、安
倍元首相と旧統一教会（現世界平和統一家
庭連合）の関係を確信したのは僕の記事
からということになるので、僕は自分の
書いた記事の覚悟が問われる事態になっ
たということはあります。

もともと事件や山上被告を取材してい
る中で、昨年一月に弁護士と話をしてい
たら「事件前にエイトさんにメッセージ
を送ったけれども返信が来なかったと山
上被告が言っていましたよ」ということ

て聞いたら「いや、返事はきていて、や
りとりしていましたよ」と言っていて。

山上被告のX（旧ツイッター）のアカウン
トは現在凍結されているのでもう確認は
できないのですが、ただ、以前通知転送
されたメッセージを確認したら、確かに
彼のアカウントから二回メッセージが来
ていました。

エマ 彼からのメッセージを見逃されていた訳
ではなかったんですね。そちらにエイト
さんは返信されていたのですか？

彼が、安倍元首相と

旧統一教会（現世界平和統一家庭連合）の関係を確信したのは
僕の記事からということになる

うことで、僕は普段、基本的には滅多に
落ち込まないのですが、それを知ったと
きはかなりへこみました。

でも、その一週間後にまた弁護士から
連絡があって、接見したときにあらため

エイト はい、していました。確かにそれは事件

の内容を予告するものではなかったのだ
ですが、彼が僕の記事をずっと読んでいた
ということが書いてあって、そこから察
するに、安倍元首相と旧統一教会の関係

を彼が確認したのは僕の記事だったという事になり、自分の立ち位置が、事件を取材する第三者から犯人の動機面にかかわる当事者性を帯びてきてしまいました。

エマ それは本当に、想像を絶する深い葛藤が生じられたのではとお察しします。

このような悲惨な状況から一刻も早く救われる手立てはないものかといつもすがるような気持ちでおりました

ろうと思っっているのですが、そのニュアンスがなかなか伝わりづらいのです。

エマ ネット等の反応はいかがですか？

エイト そうですね、僕が山上被告をけしかけたとか、旧統一教会とまったく関係がない安倍元首相を襲わせるために嘘を吹き込

エイト

自分の立ち位置としては、今後、彼の動機面を正しく裁判員に提示するために意見書を提出したり、証人尋問なり、裁判に関わる可能性がある。それについては「協力します」と言っているのですが、ただ、弁護方針としてそこを争点にしない場合は僕の出番もないし。ただ、自分は彼を減刑させるために関わろうとしているわけではなくて、事件の動機面を適切に裁判員に判断してもらうために関わ

エマ

そうでしたか。そのような形でエイトさんが苦悩されることになるとは。山上被告と同世代の四十代の私自身、九〇年代初頭から約三十年以上かけても

身近な人との心温まるふれあいや本誌への感想、仏教についての質問などを600字以内でお寄せください。Eメールでも受け付けております。

送り先.....
〒252-0116
神奈川県相模原市緑区城山4-2-5
仏教企画編集部
Eメールアドレス.....
fujiki@water.ocn.ne.jp

先日、平塚市内で上條さんの講演を聴きました。元氣そうで良かったです。『曹洞禅グラフ』170号の中で、正木晃さんの「ペット供養を考える」がとても良かったです。わが家も黒のメス猫を家族同様に飼っていますが、もう14歳になり、供養のことを考えなければならなくなりました。「ペット供養を考える」の20、21頁の地藏さんと一緒に座っている猫の写真が良かったです。特に21頁の猫は共に前方を見て、生きた仏様のようにです。

神奈川県 西岡則昌様

読者からのお便り

お便り募集



今回の特集にご登場頂いた鈴木エイト氏のご著書『山上徹也』とは何者だったのか(講談社+a新書)、『自民党の統一教会汚染 追跡3000日』(小学館)、エマさんの体験談が載る毎日新聞取材班編『ルポ 宗教と子ども』を各書2名の方にプレゼントいたします。仏教企画(下記「お便り募集」送り先)まで、ご希望の書名・お名前・郵便番号・住所・電話番号・プレゼント名を明記のうえハガキでご応募ください。

..... 2025年2月末必着

本誌169(夏)号のプレゼント、藤田一照師の共著『アップデートする仏教』は、次の方々が当選されました。

北海道/佐藤幸恵様 岩手県/石川正行様
宮城県/多田ひろ子様 千葉県/星昭子様
東京都/小川直幸様

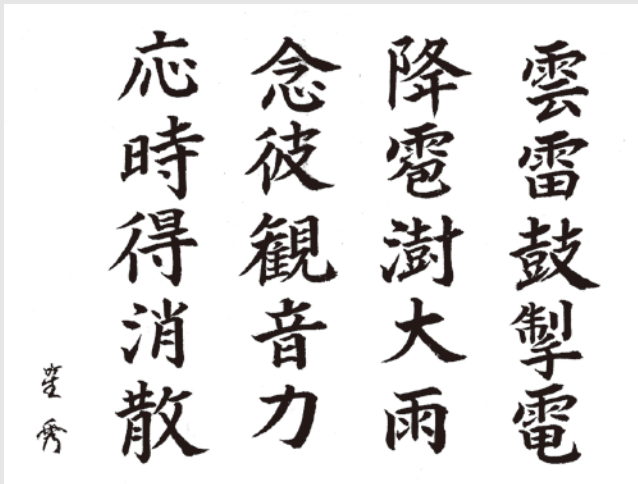
憶測にはなりますが、あります。でも、そんな中でも情報を探っていくと、エイトさんのお名前って絶対目につくのですよ。なので、私も約十五年以上前からエイトさんのことは存じあげていました。おそらく山上被告もかなり以前からエイトさんの発信される情報を追いかけていたと思いますし、それが真実に近い、大きな情報であればあるほど自らそれを解き明かしたい、確かめたいという気持ちがあったのではないかと思います。

(後半につづく)

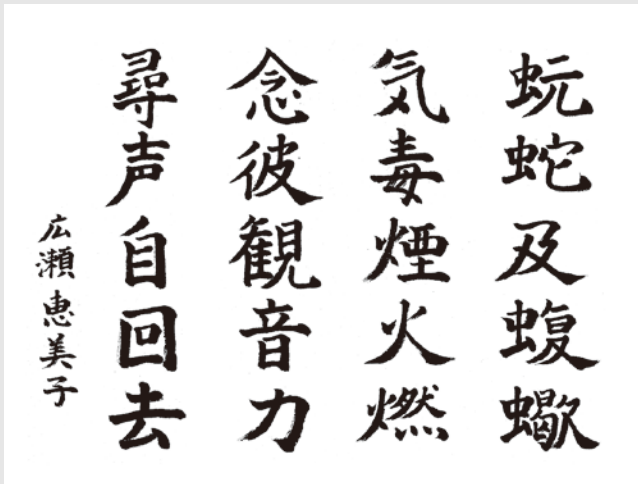
仏教画 | 毎日書道 | 作品審査評

今号では『曹洞禅グラフ』165号～168号の写経手本による62点の応募作品の中から、書きぶりの素敵な作品10点を選び寸評を添えました。甲乙つけがたい作品揃いでしたが、優秀作品の図版掲載はお二人とさせていただきます。

- * 青木文子さん 毎号しっかりと多習され、滑らかな使筆、字形ともに素晴らしい作品です。(167冬号)
- * 海老岡道子さん 一字一字しっかりと力のかもった、全体の収め良く好作品です。(167冬号)
- * 東安夫さん 堂々とした線質で、字形、収めともに素晴らしい作品です。(165夏号)
- * 松浦章雄さん 幅び幅びとした線が魅力的な作品です。(165夏号)
- * 川嶋勉さん 整った字形で穏やかな筆使いの作品です。(167冬号)
- * 市川國是さん 線の強弱が美しい、整った作品です。(165夏号)
- * 齊藤愛子さん 正確で、切れのある筆使いの好作品です。(168春号)
- * 清水川峰子さん 滑らかな躍動感のある運筆が魅力的な作品です。(167冬号)



笹秀さん(167冬号)
堂々として力強く、起筆、右払い、字形ともに素晴らしい作品です。



広瀬恵美子さん(166秋号)
ゆったりとした線質で、力強さも立派な作品です。

毎日書道

書家 松山妍流



作品集

ご家族のみなさまの応募をお待ちしております

お手本を参考にして、作品を半紙(横向、お名前は左側)に書いてご応募ください。(無料)ご応募の中から優秀な作品を選び、年に1度誌上で発表し、記念品を贈呈します。住所、氏名、電話番号を明記して作品をどしどしお寄せください。165号(夏号)～168号(春号)の審査発表は171号(今号)にて、169(今号)～172号(春号)の審査発表は175号(冬号)にて行います。

送り先 〒252-0116 神奈川県相模原市緑区城山4-2-5
仏教企画 ☎042-703-8641

締切 2025年2月末(当日消印有効)

松山妍流先生は、埼玉県所沢市吉祥院住職丸山劫外師のお姉さんで書家(佐藤柯流に師事)です。

真觀清淨觀
廣大智慧觀
悲觀及慈觀
常願常瞻仰

真の眼、清らかな眼
広大なる智慧の眼
慈悲の眼(そ)を持つ観音を
常に心に願い
常に仰ぎ見るべし

『法華経』普門品より
訳 丸山劫外

募集俳句選

選・尾崎竹詩

がんばらない二人の暮し遠花火

静岡県 亀澤淑子

日本が高齢化社会と言われ初めてずいぶん経ちます。子供たちは独立して老夫婦だけで暮らしているのです。お互いに支え合い助け合っているの暮しは無理をしない、頑張らないことが基本なのです。そんな労わり合っていたある日、遠くで花火大会があるらしく打ち上げ花火の音が小さく聞こえてきたのです。音に気付いて振り向いてももう花火は見えませんがかりし頃の二人の思い出が走馬灯のように頭の中を駆け巡るのです。

湯治場に朝市の立ち明易し

千葉県 戸田ユミヲ

東北地方の鄙びた温泉地には、今でも湯治に来て一週間と言わず数か月を住み込んで体の悪いところを治したりメンテナンスをしたりするので。そうすると長期間になるので炊事道具を持ち込み自炊されているのが普通です。そういう方を対象に朝市が立つのでしよう。東北訛りでの掛け合いがあたりかたくて毎年こられる方も多いです。

年間大賞

『曹洞禅グラフ』に俳句募集欄ができて四年が経ちました。今年は167号から169号の中から年間大賞を決めることになりました。

年間大賞

終日を探しものして夏了る

三重県 荻屋奈良美

夏の終わりは何とも言えぬ寂寥感に襲われることがあります。盛り上がった夏の季節に自分の人生を重ね合わせて感傷的になるのかもしれない。そのような微妙な季節の変わり目に失ったものを一日中探しているのです。探しても探しても見つからないかもしれない。それは「物」ではなく「もの」だからです。どうしても見つからない喪失感を夏の了りの季節感で代弁させているのです。「終わり」ではなく「了り」としたところに作者の強い思いが滲んでいます。荻屋さんの鋭い肌感覚と繊細な言語感覚が十二分に活かされた一句です。

年間優秀賞

引き売りの声に手鍋や堂鳥賊

神奈川県 田中恵一

堂鳥賊は春から夏にかけて日本海側でよく水揚げされる期間限定の小型の鳥賊です。今は冷蔵技術の進歩により地域感も季節感も薄れています。今はあまり見かけなくなりました。「引き売り」や「手鍋」などともに良き昭和



おさき たけし
1947年 徳島県阿南市生まれ
2016年 現代俳句協会理事
2019年より神奈川県現代俳句協会会長

ひとときを堂の乱舞古代蓮

埼玉県 西岡備中

埼玉県行田市の古代蓮の里では、千五百年、三千年前の地層から発見された蓮の種を発芽させて今は何万株とも増やしているそうです。その蓮田を風間は蓮の花、夜は堂が乱舞するというのです。現在のひとときと古代からの長い時間を対比して眼前の風景に凝縮したのです。

病明け梅雨の晴れ間の草を抜く

三重県 杉本敏子

病気で伏している間は身体も心も憂鬱なものです。そのトンネルを抜けた先は梅雨の晴れ間みたいな感覚に通じてきます。病に伏していた間に伸びた雑草を抜くことから元の元々な日常に還っていくのです。

選者詠

山門が額縁となる寺紅葉

尾崎竹詩

の時代の臨場感を表現することができました。

年間優秀賞

少女弾く駅舎のピアノ秋の風

東京都 青山千代子

駅や空港に置かれたピアノを自由に演奏している旅人をテレビ画面でご覧になった方は多いと思います。電車や飛行機の待ち時間を利用されているでしょう。譜面も持たずにとでも上手に演奏される方が多いですね。この句の場合、「少女」と「秋の風」の取り合わせがよく生かされています。

年間佳作

白粥に添える農婦の落の臺

埼玉県 江森京香

古民家の路地の片隅石落の花
群馬県 佐藤千恵子

再会のご縁に感謝落しぶみ

三重県 伊藤友江

作品募集

みなさまのご応募をお待ちしております(お一人3作品まで)

お申し込み方法

作品、住所、氏名、電話番号を明記して下記のいずれかにてお寄せください。

- はがき、封書で投稿
送り先・〒252-0116
相模原市緑区城山4-2-5
仏教企画
『曹洞禅グラフ』俳句募集係宛
- Eメールで投稿
fujiki@water.ocn.ne.jp

締切 2025年2月末日(当日消印有効)

- ご応募の中から優秀な作品を選び、誌上にて発表する予定です。
- 更に年に1回冬号(新年号)にて年間優秀作品を選出し、記念品を贈呈します。

見えてきた

カルトの闇と

対峙する 後編

(9ページのつづき)

エイト

今後、もし山上被告と接見できる機会があるとしたら、裁判に関わることはそんなに聞くつもりはなくて、僕に、もしそこまで彼を追い込んでしまったものがあつたとしたら、それは自分がきちんとこの問題をもっと早く社会に問うことができなかつたことや、現在くらい発信力やプレゼンスが高ければ、もっと違ったかもしれないということ。その点で謝ろうと思っています。

謝るといふか、そのような気持ちを持つていているということを伝えようと思っています。

エイト

山上被告からのメッセージの内容は『やや日刊カルト新聞』（エイト氏が主筆を担うニュースサイト）を従前から見ていました。初めまして。家族に信者があり、旧統一教会をウォッチしている者です」と。『やや日刊カルト新聞』をはじめ、エイト氏の日ごろの活動には頭が下がります」みたいなことを最初に書いてきています。

エマ

やはり彼もエイトさんの動向をチェックしていたのですね。

エマ

彼に対して、謝罪に似た気持ちを持つていらつしやるということですね。それは、エイトさんが直接追い込んだ訳ではないのにはですか？

エイト

はい、もちろん大前提として、彼を直接追い込んだのは自分ではなく旧統一教会であるだろうと思っているし、自分もそれを主な発信としていましたから、当事者には確かに届いていたと思います。でも、一般社会には全く届いていなかったもので、その点でいうと自分の力のなさと

いうのを感じるところだし、その辺の話をしたいなとは思っていますね。

エイト

そうですね。韓鶴子が日本にきたときに殺傷されたとしたら、それはそれである程度大きなニュースにはなっただろうけれど、ここまで社会を巻き込む大きな報道にはなっていなかったというところは確かにありますね。

エマ

長きにわたってすぐタブー視されていて、まるでブラックボックスに入っているような事実だったのを、あの事件なくして一般社会に大々的に発信するということは、果たして可能でしたでしょうか？

エイト

難しかったでしょうね。しかも、もしあれが失敗して安倍元首相が助かっていたとしたら、こんなに大きな問題になつていなかったかもしれないし、もっと言えない

それが顕在化したのではなく、可視化されたという言い方をしているのですが、そのことよつて二世の問題をはじめ旧

安倍元首相が助かっていたとしたら、
こんなに大きな問題になつていなかったかもしれない

ば、安倍元首相がより強固な権力を持つて全部潰してきた可能性もあるので。

エマ

あれが、韓鶴子ハンハクチャ（旧統一教会現教祖）だったとしても違つたなと思うのです。安倍元首相だったからというところも。

統一教会の問題がこんなに進行していたのかということや、一般の方が知るようになって、国が動くということになつたのです。

エマ

本当にそうですね。私も可視化という表

現が実に腑に落ちます。あの事件が起きるまで、自分はずっと、透明な存在だと思っていましたから。

自分の身に起きていることの真実は一体何なのか、始終もやもやして、生きている実感が、非常に持ちづらかった。

確かに、元首相銃撃事件で可視化されたというのは事実なのですが、問題にすべ

山上徹也が犯罪者にもならず、自分が無名の存在のまままでこの問題を追及している社会とどちらを選ぶかといったら、僕は後者を選ぶので。

でも、突き詰めると同じように、この社会においてほかにもこういう問題が実は進行して存在していて。ただそれに気が付いていないだけで、可視化されていない問題が他にももっとあるのではないか

エイト

一人の人間を犯罪者にして、

殺人を犯そうとするようなところに追い込むまで

問題が放置されていたということですよ

きは、それまで可視化されていなかったということですよ。

それをやっていた一人が僕ですけれども、まだまだ力が足りなかったということだと思います。その点では非常に複雑な気持ちではありますね。

本にも書いたのですが、自分なりにもある程度こうやって有名になって、山上徹也が被告となり、安倍元首相が亡くなっている世界と、安倍元首相が生き残り、

という認識を、この事件によって持つてもらえたのではということがありますね。

エマ

私自身も、実際に可視化されている問題の方が、氷山の一角なのではと思うことがあります。

エイト

もし安倍元首相が亡くなっていなかったとしても、一人の人間を犯罪者にして、殺人を犯そうとするようなところに追

込むまで問題が放置されていたということですよ。そこに風穴を開けたという点では評価できるかもしれませんが、山上被告がやったことは決して褒められないし、テロによって社会を変えることはいけないという文脈とは別の視点でそれは間違っているということを言わなきゃいけない。

そして自分にとっては、自身が追及していたターゲットを殺されてしまったという立場なわけです。本来なら生きたまま追及し、責任をとらせるべきだったはずなのに、その機会は永遠に失われてしまいました。

エマ

私自身は、メディアの取材時に「山上被告と似た境遇の二世」と表現されることもあったのですが、それとは別にして、もしかしたら、いつかこういうことが起こるのではないかとどこかで思っていたところがあった。

なので、事件当日の奈良県警の会見で「ある特定の宗教団体に恨みを持つ者の犯行」と出たときに、もしかしたら旧統一教会が関係しているかもしれないという予感めいたものが、私にはありまし

た。

それはなぜかというところ、こんな惨状、地獄絵図みたいなのが、ごく普通の一般家庭で多数起きているのに、具体的な解決方法も示されず、相談しても誰も助けてくれない、また周囲も安易に助けられないような状況があり、そしてそれが何十年も現実的にまかり通るのであれば、もしかしたら、そのようなことが起こってもおかしくないなと思って。

でも一方で、実際に自分が四十歳を過ぎて、このような重大な事件が起こって社会が動き出してもすぐに実感が持てなくて。気持ちのどこかでは、いつかそのようなことが起こるかもしれないと思っていたはずなのに、やっぱりこのような事態になるところまでいってしまったかという深い悲しみと葛藤があり、それで山上被告に対して「やらせてしまった」という気持ちを持ったのです。

事実を受け入れるのに相当時間がかかり、初動も遅れて、国会に持って行って頂く陳情書の提出もギリギリになってしまいました

エイト

別の脱会した二世に聞いたら、いつかこ

やっぱりこのような事態になるところまで
いってしまったかという深い悲しみと葛藤があり、
それで山上被告に対して
「やらせてしまった」という気持ちを持ったのです。

ういう事件が起きるといふことを教団側
に警告していたという人がいたそうです。
僕でさえ、事件後一カ月くらい感情の
振幅幅がひどくて、海外メディアの取材
を受けているときに二世の話をしている
中で、「涙が止まらないことが何回かあつ
て、かなり自分でも危ういなと思って。

自分の妻にも自分がおかしくなつてい
たら教えてくれという話はしていました。
山上被告が僕の記事を見て影響を受け
て事件を起こしたことに對しては、もう
それは仕方がないというか、それはそう
いふものなのだと思いますが、
そこではなく、僕の書いたことによつて
安倍元首相と旧統一教会の関係をきちん
とクリアにできるような、そういう社会
にできなかったということがありますね。
社会一般、メディアが長年軽視してい
た問題がこんな重大事件になったといふ、

その教訓を忘れないでくださいねとい
うことです。実際、まだ救われていない二
世たちも大勢いるわけで、何も解決して
いるわけではないのですから。

鈴木エイト

1968年生まれ、滋賀県
出身。日本大学卒。日本ベ
ンクラブ会員、日本脱カル
ト協会理事、やや日刊カル
ト新聞主筆。著書に『自民
党の統一教会汚染』シリー
ズ（小学館）、『山上徹也』
とは何者だったのか』（講
談社）など多数。日本ジャ
ーナリスト会議JCI賞大
賞、石橋湛山記念早稲田
ジャーナリズム大賞などを
受賞。



宗教二世 エマ

旧統一教会被害者救済法成
立に際し、国会への陳情書
提出に協力。各メディアに
も被害の実態を訴え続けて
いる。自身も、雑誌編集や
広報等の職に携わっていた
経験から、今回の対談では
執筆も担当した。今号ブレ
ゼント本『宗教と子ども』
（毎日新聞取材班編）にも
実体験が掲載されている。



恩師

佐々木宏幹先生を偲ぶ

和六年二月、宗教人類学者・佐々木宏幹先生が亡くなりました。シャーマニズム研究の第一人者であり仏教にも造詣が深かった先生は、その知見の広さからさまざまな分野の研究者や文化人との対話を行ってきました。

駒澤大学名誉教授であった先生は、宮城県気仙沼市の曹洞宗寺院の出身。郷土への思いから「みなと気仙沼大使」を十年つとめていました。

そうした諸々の功績を讃え、気仙沼の少林寺に「顕彰碑」が建てられました。



佐々木宏幹先生

私は昭和四十五年に第十五期生として曹洞宗教化研究所入り。その時、第一期生の大先輩であり、研修指導者であった服部松斉老師と共に大変お世話になったのが、同郷の宏幹先生です。この時期は、曹洞宗青年会が各地に結成され、「禅のつどい」の活動が開始したばかりでした。

宮城県でも先生を講師に迎え「法座」の座主となり、参加者の間に親しみを込め明朗に語りかけておられた姿が印象的でした。多くの思い出が蘇りますが、私が進路に迷っていた時、適切なアドバイスを下されたお陰で、タイ国へ留学する決断ができました。

した。その上、タイ国寺院に問い合わせさせて頂き、お陰で二年半の留学が実現出来ました。ここに遺徳を偲ぶ顕彰碑を本年九月十五日、二十名ほどの参加を賜り、兼務した少林寺に建立できましたのは、私にとって御恩に報いる事になりました。宮城県石巻市 洞源院 小野崎秀通



顕彰碑の除幕式には、様々な繋がりの方々が参集された



の 者 会 と 死 再



島 蘭 進

「また会おうね」という別れの挨拶は世界各地にあるようです。英語では「See you again」、中国語では「再見^{ツァイチェン}」などなど。日本でも「またね」と別れることは多いです。

死別と葬送においてもこれに似た別れの言葉が用いられることがあります。私はキリスト教の葬儀の最後に「神ともいまして」を歌うのを何度か経験し、懐かしく感じるようになっていきます。

て行こうという意味でしょう。そして、死者も神に見守られていると安らぎを祈る歌です。

仏教と縁が深い日本の死別の場面ではどうでしょう。最近では墓石に「俱会^{くわい}一処^{いっしょ}」と彫られていることも多いです。この言葉は浄土三部経の一つ、『仏説阿彌陀經』に出てくるもので、極楽往生を願う者は浄土で「諸上善人と俱に一処に会する」ことができる、と記されているものです。

「諸上善人」というと、特別選ばれた人という意味なのかもしれません。しかし、すべての衆生を救うという阿彌陀仏の誓願を思い起こせば、誰でも願えることと受け取ってよいのかもしれませんが。辛い別れはあるものの、それを超えてお浄土でまた会おうと念ずるということになり

ます。
実際、死者と夢で会うという経験をもつ人は少なくありません。日本人には「お迎え」を経験する人が多いようです。死が近いと感じると、夢や幻に死者が現れ、「まだ来なくていいよ」とか、「もう来てもいいよ」というように思うのです。東北地方では、イタコの口寄せで故人の言葉を聞くという習俗に多くの人たちが加わる時期もありました。



しまぞの すずむ
1948年生まれ。宗教学者。
東京大学大学院名誉教授。
上智大学神学部特任教授。同グリーンフエア研究所所長。
専門は日本宗教学。

かみともにいまして ゆく道をまもり
あめの御糧もて ちからをあたえませ
また会う日まで また会う日まで
かみのまもり 汝が身を離れざれ

死後、向こう側の世界でまた会おう、それまでのお別れだ、という祈りの歌です。再会は「天国」でしょうか、「神のみもと」でしょうか。また会いたい、そう信じて別れの悲しみに耐え

ご仏壇の死者にときどき言葉をかける、あるいは言葉をかけるような気持ちで挨拶をしてから家を出るといった人の話も聞いたことがあります。仏壇でなくても遺影やアルバムで故人の顔を見ながら、故人の声が聞こえるように思う人もいます。「千の風になって」の歌も思い出されます。

今はSNSなどを通して、多くの人がありし日の親しかった故人の姿を録音やビデオ映像で目の当たりにするようになりました。これも故人との再会になぞらえることができるそうです。AIを使って故人があなたかも生きていて新たな言葉を発するようにプログラムすることもできるようになりました。

作られたりプログラムされた「再会」よりも、思いがけない恵みとしての再会こそ望ましいと思う人もいます。私もそうなのですが、ともかく「死者との再会」が現実離れたことではないと感じられる時代になりました。墓石に「俱会一処」と彫られることが増えているのもそうした人心の変化の表れでしょう。

光明	曹洞宗管長 大本山永平寺賞首 南澤道人	2
水到渠成	大本山總持寺賞首 石附周行	3
特集 鈴木エイトさんインタビュー 見えてきたカルトの闇と対峙する(前編)	宗教二世 エマ	4
毎日書道・作品審査評	松山妍流	10
募集俳句選・年間大賞	尾崎竹詩	12
特集 鈴木エイトさんインタビュー 見えてきたカルトの闇と対峙する(後編)	宗教二世 エマ	14
恩師 佐々木宏幹先生を偲ぶ	洞源院 小野崎秀通	19
死者との再会	島菌進	22

表紙画「ザゼンソウ」／平川恒太

今年の2月、スキーへ行った帰りに栃木県大田原市でザゼンソウを初めて見た。仏像の光背に似た形の花弁の重なりが僧侶が坐禅を組み姿に見えることが、名称の由来とされるようだ。達磨大師の坐禅する姿に見立てて、ダルマソウ(達磨草)とも呼ぶとか。冬のつらい寒さを耐えていち早く花を咲かせるザゼンソウの力強さに感動した。樹々も次の春に向けて冬芽の準備をする。自分も見習いたいものだ。



発行：永岡書店
 出版年：2023年
 A6判／224頁
 定価：748円(税込)

『禅』を気軽に味わえば
 心のコリがスツと消えます。

禅

監修 永井政之
 著者 宮下真

心が軽くなる83のことは

永井政之
 (ながい・まさし)
 良珊寺(群馬県)住職。
 1946年群馬県生まれ。
 仏教学博士。駒澤大学名
 誉教授、現総長。専門は
 禅学、禅宗を中心とした
 中国仏教。駒澤大学仏教
 学部卒。同大学院修了。

宮下真
 (みやした・まこと)
 文筆家・編集者。1957
 年福島県生まれ。仏教関
 係や日本の古典文化、東
 洋思想を主な分野として
 執筆・出版活動に従事。

書店にてお求めください